

国 語

注 意

1. 問題は全部で14ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
6. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. **HB**の黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6	<input type="radio"/> 7	<input type="radio"/> 8	<input type="radio"/> 9	<input type="radio"/> 0
---	----------------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり折り曲げたりしないこと。

— 次 の 文 章 を 読 ん で 、 後 の 問 に 答 え よ 。

「労働日」と名づけられた『資本論』の一節で、カール・マルクスは、一八六三年にイングランドで児童雇用委員会に提出された証言書を取り上げている。そのうちの一つは壁紙工場の児童労働者の母親が行った証言である。「息子が七歳のとき、私はよくあの子をおぶって雪のなかを仕事に連れていきました。あの子は一日に一六時間働くのが普通でした。……機械のそばに立っている息子がそこから離れたり手を休めたりしなくてもすむように、私がひざまずいて食事を与えていました」。

蒸気エンジンに石炭と水が与えられるように、子どもには働いている最中に食事が与えられたのである。まさにこの子どもは「労働のための道具」であった。マルクスは、

1

一日何時間なら公正といえるのか、そして工場主が得る利益を考慮すると、その道具となった人間にはどれだけの報酬が支払われるべきかを問うた。だが彼は、「労働の道具」となることで、いったい人は

2

何を失うのか、ということにも関心を抱いていた。それは彼にとつてはより根本的な問いだった。

その一七年後、別の大陸では、デルタ航空のステューワーズ訓練センターの大講義室で、二〇歳の客室乗務員訓練生が二人の仲間といつしよにパイロットの講義を聞いていた。アメリカの今日的基準から言っても、またもちろん女性の仕事の基準から言っても、彼女は一流の仕事に就いていた。健康や事故に対する保障も与えられ、勤務時間も申し分ない。

私の隣に座っていた若い訓練生は、メモ帳に「笑顔が大切。笑顔を忘れないように」と書き取っていた。壇上の話し手は、年のころは五〇代前半で髪はクルーカットのパイロットだった。彼は南部風のだるそうな話しぶりでこう訓示した。「さあ、お嬢さんたち、心から〈微笑んで〉きたまえ。笑顔は君たちの最高の〈財産〉だ。わかるかね。笑顔、〈心からの〉笑顔、〈真心のこもった〉笑顔だよ」。

パイロットは、笑顔は〈客室乗務員の〉財産だと言った。だが実際のところは、私の隣に座っているような新人たちの

3

は、訓練を経るにつれて、会社の特性——その飛行機は墜落しないという自信、離着陸は時刻表通りだという確約、

歓迎と次回の利用への招待の気持ち——を反映するように磨かれていく。訓練教官たちは、自分たちの仕事は、訓練生の笑顔

に、彼らがしばしば言うところの「プロフェッショナル」なある一つの態度、ものの見方、感情のリズムを与えることだと考えている。このプロフェッショナルな笑顔が無意識のうちに浸透していくと、4 が終わってもそれを取り去ることが難しくなる場合がある。

パシフィック・サウスウエスト・エアラインのCMソングは「私たちの笑顔は作り物じゃないわ」と歌っている。会社側が強調するのは、当社の客室乗務員の笑顔はみなさんがこれまで甘んじて受けてこられた、笑顔を振りまくことで報酬を得ている人たちの作り物の笑顔ではなく、もつと人間らしい笑顔です、ということである。この会社の各旅客機の機体の鼻先には笑顔が描かれている。このように、飛行機と乗務員とは互いを宣伝し合っている。ラジオの宣伝は、単なる笑顔とサービスだけでなく心から満足できるくつろいだ旅を約束する。一つの見方からすれば、これはただのサービスの宣伝でしかない。しかし別の見方からすれば、その広告は客室乗務員を自分たちの笑顔からソガイし、客たちには乗務員の仕事上の振る舞いは計算されたものであることを教えている、ともいえる。今日では、広告、訓練、プロフェッショナルリズムの概念、そしてドル紙幣が、笑顔を向ける者と向けられる者との間に介在するために、制服を着た者にも自発的な温かさが存在しうることを思い描くには追加的な努力が必要となる。

5、一九世紀の工場で働く子どもと二〇世紀の客室乗務員が置かれている環境は、これ以上ないというほどまったく異なっている。この少年の母親やマルクス、児童雇用委員会の委員たち、6 壁紙工場の経営者にとってさえ、

7 間違いなく現代の読者にとっては、この少年は当時の残酷な状況の犠牲者であり、その象徴である。私たちは、彼が情操作的に満たされない人生、8 疲労と飢えと退屈しか感じられないような生活を送っていると想像するかもしれない。

9 客室乗務員は、上層階級が持つ旅する自由を楽しんでいるし、自分が作り出した魅惑の世界に参加することができる。彼女は、さえない低収入の仕事に就いている事務員たちの羨望の的なのだ。

しかし両者の違いを綿密に検討していくと、3 予想もつかなかったある共通の地平へとたどり着く。表面的には、その労働による生産物を確認する方法は異なる。壁紙工場の労働者は、どうすれば仕事が終わったと言えるのか？ 壁紙のロールの数を

数えればよい。品物はできあがっている。では、客室乗務員はどうすれば仕事が終わったと言えるのか？ サービスを提供し、乗客が満足したと思われるときである。壁紙が好きか嫌いかという問題が壁紙を生産する工程の一部にはならないのに対して、客室乗務員の場合はサービスを提供するときの感情の様式それ自体がサービスの一部である。「自分の仕事を愛している」ように見えることが仕事の一部になるのである。実際この仕事では、仕事を愛し、乗客を楽しませようと努めることが、自分のためになるのである。

壁紙工場で少年が行っていた労働は、精神と腕、精神と指、精神と肩との協調を必要とする。私たちはそれを単純に肉体労働と呼ぶ。客室乗務員は、重い食事カートを押して通路を通るときには肉体労働を行うし、緊急着陸や脱出の準備をしたり、実際にそれを実施するときには頭脳労働を行う。しかしこうした肉体労働や頭脳労働を行っているなかで、彼女は何かもつと別のこと、言ってみれば私が〈感情労働〉と定義することをも行っているのである。この労働を行う人は自分の感情を誘発したり抑圧したりしながら、相手のなかに適切な精神状態——この場合は、懇親的で安全な場所でもてなしを受けているという感覚——を作り出すために、自分の外見を維持しなければならない。この種の労働は精神と感情の協調を要請し、ひいては、人格にとつて深くかつ必須のものとして私たちが重んじている自己の源泉をもしばしば使いこむ。

身体労働と感情労働の間には相違点もあるが、実は仕事をこなすために労働者が負担しなければならないコストは類似している。労働者がその労働を行うために使用する自分のなかのある側面から引き離されたりソガイされたりする可能性がある、ということだ。工場労働に携わる少年の腕は、壁紙を作る機械の部品のように働いていた。雇い主は少年の腕を一つの道具とみなし、その速さや動き方を制御する権利を主張した。この状況では、少年の腕と精神との間にはどのような関係があるのだろうか。彼の腕は、ほんとうに彼自身の腕だと言いうるだろうか？

これは古いテーマだが、客室乗務員との比較が示唆するように、現在でもなお有意味である。私たちが財を生産する社会において財からソガイされるとしたら、サービスを生産する社会においてはサービスからソガイされる。

(A・R・ホックシールド『管理される心 感情が商品になるとき』より)

問一 空欄1に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 1。

① 七歳ではさしたる戦力にはならないため

② 親の責任ではないと理解しながらも

③ 食事の時間をとらない場合には

④ 人間を道具として使うのは

⑤ 親が許可して働く場合には

問二 空欄2に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 2。

① 子どもの時代の

② 経済的観点からして

③ 人間として

④ 労働者の権利のうちの

⑤ なかばだまされるようにして

問三 空欄3に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 3。

① 曖昧な表情

② 作り物の笑顔

③ 過剰な笑顔

④ 私的な笑顔

⑤ 営業用の表情

問四 空欄4に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 4。

① 穏やかな気分

② 訓練期間

③ 離着陸

④ 雇用期間

⑤ 労働日

問五 傍線部1「ソガイ」を漢字にせよ。解答用紙(その2)を使用。

問六 傍線部2「制服を着た者にも自発的な温かさが存在しうることを思い描くには追加的な努力が必要となる」とあるが、その理由として最適なものを次の①～⑤から選び、記号で答えよ。解答欄番号は **5**。

① 企業はいまや自発的な温かさも広告しているから

② 制服はサービスする従業員に画一的な外見を与えているから

③ 客室乗務員は心からの笑顔を向けているが、客はそれを信用しないから

④ サービスにはたいてい追加料金が要求されるから

⑤ その笑顔が自発的かどうかはついに証明不可能だから

問七 空欄5に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号で答えよ。解答欄番号は **6**。

① もしかすると ② 一見すると ③ 一方の ④ ましてや ⑤ ほとんど

問八 空欄6に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号で答えよ。解答欄番号は **7**。

① もしかすると ② 一見すると ③ 一方の ④ ましてや ⑤ ほとんど

問九 空欄7に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号で答えよ。解答欄番号は **8**。

① もしかすると ② 一見すると ③ 一方の ④ ましてや ⑤ ほとんど

問十 空欄8に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号で答えよ。解答欄番号は **9**。

① もしかすると ② 一見すると ③ 一方の ④ ましてや ⑤ ほとんど

問十一 空欄9に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号で答えよ。解答欄番号は **10**。

① もしかすると ② 一見すると ③ 一方の ④ ましてや ⑤ ほとんど

問十二 傍線部「予想もつかなかったある共通の地平」とはどういうことか。次の①～⑤から最適なものを選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 11。

- ① 壁紙を作る労働も客の心地よさを生みだす労働もともに仕事の成果を数量化できる。
- ② 精神的な疲労もそれが積み重なれば肉体の疲労として現われる。
- ③ 客室乗務員の業務にも過酷な肉体労働としての一面があり、程度の差でしかない。
- ④ 子どもの労働も女性の労働も賃金を低く抑えるための戦略という意味がある。
- ⑤ 自分の重要な一部分であるはずのものが自分のものではなくなっている。

問十三 次の①～⑤のうち、この文章の論旨と異なるのはどれか。一つ選んでその記号をマークせよ。解答欄番号は 12。
は考えられている。

- ② 壁紙工場の子どもにとって自分の作る壁紙を好きか嫌いかは問題にならないのに対し、客室乗務員の仕事においては好き嫌いをはじめとする感情そのものが労働の主要な部分をなしている。
- ③ マルクスが参照した一九世紀の児童労働者の場合も、自分のなかのある側面を奪われている。
- ④ 客室乗務員の笑顔がどれだけ心地よく感じられたとしても、それはあくまで訓練された笑顔であり、自分の真の感情とは無関係の仮面であるにすぎない。
- ⑤ 客室乗務員は、単にその身体の動きだけでなく感情そのものや、その感情を表すやり方も、彼女のものでなく会社のものとなっている。

二次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、この文章の著者は、歴史的仮名づかいを用いるべきであるという主義の持ち主であるため、本文は歴史的仮名づかいに準じた表記としてある。

対語——普通には「対義語」「反対語」と謂ふ。敢へて「対語」を採るわけは次の通り。

先づ「年上」に対し「年下」が対義語なことには異論があるまい。「男」に対し「女」もさう見られる。となると、「兄」に対しては「姉」か「弟」かそれとも「妹」か。そもそも語AとBと(の或用法)が対義を成すとは、それらの上位概念(今の例でなら「子」となる、偶然でない共通部分が有り、その上で着目観点からは対立的に捉へられる差を表してゐることだ。この点で「兄」に関しては「姉」や「弟」より「妹」が最も対立の甚だしい語と言へよう。が、普通には、年長のきょうだい或いは男のきょうだいといふ観点がアンモクの前提となつて話されるので、「妹」を「兄」の対義語とすることに幾分のためらひが感じられる。つまり(以前は珍しくなかつた三人きょうだい以上の場合)同性のがあれば「兄」と「妹」とを対で語ることが少ないのだ。それをすれば対比の強調となる。

さういふ例に春夏秋冬が有り、日本の季節でなら言はば平等に並べて考へられる。にも拘らず語の用法としては、

春は桜よ 秋なら紅葉

〔俗謡〕田原坂

夏は照られて汗に泣き 冬は降られて雪に泣き

〔欣舞節〕利根の川辺

等、「春」↑↓「秋」、「夏」↑↓「冬」が対を作るのが普通だ。これに引き替へ、隣り合ふ季節の夏と秋とは、お母さまの亡くなったのが夏でよかつたと思ひます。もし秋だったらどんなに悲しかつたでしょう。

〔落ち梅記〕山本周五郎小説全集24、新潮社、一九八三、二五五—六頁

のやうに異類のものとして扱はれ勝ちで、「冬来たりなば春遠からじ」も同様だ。だから「春」「秋」また「夏」「冬」の組それぞれを対語とする。「夏」対「秋」をさう見ないのは極端に言へば「男」対「雌」が対語でないのに事情が近い。

この種の言語事象を論ずるには、単に対義的といふだけでなく、その言語(集団)の中で対を作りやすいかどうかといふ、用法

の語彙論的考察にも注意が要る。これが、私が敢へて術語《対語》を設けた所以^d。

「狭量」対「広量」は、語の成り立ちからも意味・用法からも、少なくとも大正頃までは歴とした対語だった。今日でもその筈だが、「狭量」に対する語を問はれて大概の人には「広量」が答へられない。漢語使用能力が落ちた上に日本人が矢鱈にせましくなったせるかも知れないけれど、「広量」は既に死語に近く「狭量」だけがやもめで残った。とすると、狭い意味の現代語は「狭量」の対語を欠くわけだ。一つには「度量」にも馴染みが薄れ、「狭量」だけ化石的に使ふ結果だらう。かうした「退化」は望ましくない。研究の面でも、語誌を越えた語彙研究が依然振はない。社会言語学も、カッコいい事ばかりでなくかういふ問題にも目を配ったらどうか。

「早晚」や「遅かれ早かれ」から分る通り、「晩年」と「早年」とは語の成り立ちからすれば対義語であることに疑ひは無い。但し現在の用法に即して眺めると、

「晩年」は《かなりの年数は生きた一生の末の、死に近づいた時期》を謂ひ、「晩年は不幸だった」のやうに使ふ。八つで死んだ子の七つの時を「晩年」とは言はない。「夭折した彼に一六歳の時の詩は既に晩年作だった」などは一種の見立て表現。

「早年」は《まだ年が若い時》を謂ひ、「早年にして名を揚げた」のやうに使ふ。多くは、個人の一生のうちより、他人の在り方に比べて言ふから、「七歳の早年で微分方程式を解いた天才」も見立て表現ではない。

となれば、この組は厳密には対義と言ひ難く、用法に即する限り対語でない。表現上の要因があつてさうなつた事の認識が大切だ。

こゝに對語が崩れゆく姿の、小さい例二つを挙げた。見直しは色々必要だらう。

「最初」対「最後」が普通の見方で對語であることは争へない。だが、それらの語義・用法のすべてに亘つて對を成すわけでない事は、「最後」には存し「最初」にはその対応表現を欠く次例二つを挙げるだけで十分。

こんな御袋を持つたが最後朝から晩迄泣き通しに泣いて居なくてはならない。

『夏目漱石』吾輩は猫である』一〇

そこに落ちこんだら最後、もう外へ出てこれないのだから、

〔中村雄二郎『術語集』岩波新書、一九八四、七三頁〕

なほ、単独使用での副詞法は「最初」には有つても「最後」には無かつたのが、

貴ノ浪は朝乃翔の突つ張りに依に詰まつたが、最後回り込んで逆転の突き落とし。

〔毎日新聞一九九六年五月二二日朝刊スポーツ面〕

など、現れ出した。「もろ」「おのづ」「無茶」「目茶」「原則」だけで助詞を伴はない、これも近頃の副詞用法と、軌を一にする（実は「実、嬉しいが」、「深川くづし」「大正半ば」は夙いどにあつた）。この類ひを背景に、書き手に潜む対語意識がなせるわざか。

「無上」と「無下」とは字面からは対語に見える。だが、対の意味での「無下」を既に使はなくなつた結果、けふびは意味が対にならない。それも道理、今「無下」と書くのは本来「無礙／無碍」の宛字と思はれる。尤も「に」を伴つた場合、「これより下が無いほど非道く」の転義と解し得ないわけではない。それでも「無上に」の意味と対を成しがたいことに変りは無い。

かういふ事を組織的に追ふのは泥仕事で、しかも問題意識——常日頃の構へに立つた見通しが要る。泥仕事を厭つて何の精密化・理論化ぞ。近頃の理論言語学は、その研究者個人が《綺麗に行く》と考へた範囲で《理論》をこねくり廻すだけで、おのが力量不足ゆゑ手に余る所はシヨウマツセツイの《汚い》泥仕事と斬り捨てて憚らない。これは言語に対して極めて不遜だ。絵空事の理論に私は与しない。

（水谷静夫『辞書を育てて』より）

問一 傍線部 a「さういふ例」とあるが、どういう例のことか。該当するものをその前の部分から抜き出すとして最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 13。

- ① 対義語なことには異論があるまい。
- ② 最も対立の甚だしい語と言へよう。
- ③ 共通部分が有り、その上で着目観点からは対立的に捉へられる
- ④ 対義語とすることに幾分のためらひが感じられる。
- ⑤ 対比の強調となる。

問二 傍線部 b「異類のものとして扱はれ勝ちで」とあるが、これはどういうことを意味するか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 14。

- ① 「冬来たりなは春遠からじ」と同じようなことわざがあること
- ② 春・冬のペアに対し、夏・秋がペアとなるということ
- ③ 夏と秋がなぜか平等に扱われるということ
- ④ 春夏秋冬の中から、夏と秋だけが特別なものとして取り出されること
- ⑤ 全部が等しい体系の中で、二つの素性が異なるものとされること

問三 傍線部c「極端に言へば」男「対」雌「が対語でないのに事情が近い」とあるが、これはどういう事情のことか。最適な説明を

次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は15。

- ① 「男」と「雌」はまったくジャンルが違ふ言葉であり、その意味では比較する対象とはならないということ
- ② それぞれに「女」「雄」といった対語があるため、「夏」と「秋」もこれに似ていること
- ③ 春・夏・秋・冬は四語の組であるのに対し、男・女・雄・雌の方も四語であること
- ④ いずれも漢字語という共通性を持つことで、語の意味における対立概念が明確であること
- ⑤ いずれもよくことわざなどに使われる一般的な語彙であり、また「男」と「雌」は同一の性質を持つこと

問四 傍線部d「術語《対語》を設けた所以」とあるがここではどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号を

マークせよ。解答欄番号は16。

- ① 昔は三人兄弟もあつたが、今ではそれが少なくなつて「兄」「妹」を対で語ることが少なくなつたから
- ② 対の作りやすさだけが語彙論的には重要な問題点であるから
- ③ 二語における関係性だけでなく、三語、四語といった複数の語における扱いが必要であるから
- ④ これらの単語のペアの定義においては、従来の「対義語」という用語の性質だけでは足らず、対を作りやすいという性質があるから
- ⑤ 「対義語」と「反対語」とでは意味が少し異なるため、それとは違ふ術語が必要であるから

問五 傍線部 e「狭量」の正しい使い方として、最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 17。

- ① 友人同士の狭量な関係によって親しくなれない。
- ② 狭量な道路では交通事故が起きやすい。
- ③ 狭量的心情によつて他人をねたんだりするのはよくない。
- ④ 買って来た野菜がとても狭量だったので料理に困った。
- ⑤ 彼は細かいことにこだわる狭量な人だ。

問六 傍線部 f「度量」にも馴染みが薄れ、「狭量」だけ化石的に使ふ結果だらう」とあるが、何がどうなったというのか。著者の意図として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 18。

- ① 「度量」と「広量」は本来の対語であったが、「度量」の意味が変化したために、「狭量」だけが取り残される形となった。
- ② 「狭量」は、「度量」という上位概念があったが、「度量」がなくなったため、本来の体系がわからなくなっている。
- ③ 「度量」が「退化」したため、「広量」も合わせて衰退する結果となった。
- ④ 「度量」と「広量」と「狭量」とについての語誌的研究の結果がでた。
- ⑤ 日本人の漢語使用能力が落ちたため、「狭量」だけが使われるので、「度量」も廃れた。

問七 傍線部 g「一種の見立て表現」とあるが、この「見立て」と最も近いと思われる修辞用語として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 19。

- ① 縁語
- ② 掛詞
- ③ 誇張
- ④ 比喩
- ⑤ 対句

問八 傍線部h「見直しはいろいろ必要だらう」とあるがどういうことをすることか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 20。

- ① 社会言語学の学問体系全体について、これらの動きを頭に入れつつ、研究方法を革新していく。
- ② 対語であっても対義語ではないということがありうるため、それを見直す。
- ③ 対語が崩れていくという言葉の乱れについてあらためて見直していくことで日本語を守っていく。
- ④ どの語とどの語が対語になっているかについて、時代が変化すれば検討し直す。
- ⑤ 見立て表現において、何をどのように扱うかについて、見直しをすることが必要であり、それを研究する。

問九 傍線部i「夙にあった」とあるがこの文脈ではどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 21。

- ① 知られていないが、確かにあった。
- ② 以前から存在した。
- ③ 調査すると見つかった。
- ④ その時代には存在した。
- ⑤ 首都で使われていた。

問十 傍線部j「無礙／無碍」の宛字と思はれる「場合の「無下」の読み方として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 22。

- ① むが
- ② むか
- ③ むぎ
- ④ むげ
- ⑤ むがい

問十一 著者の言う「対語」の定義として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 23。

- ① 書き手における純粹な対語意識のみが存在する二語
- ② すべての語義・用法にわたって均一に対をなす語の組
- ③ 共通の上位概念のもとで、対立的部分もあり、対を作りやすい語のペア
- ④ 平等に並べて考えられるはずの語の用法
- ⑤ 語誌を越えた語彙研究の枠組みで考えられる語と語の関係

問十二 本文中の傍線部ア、イの片仮名を漢字にせよ。解答用紙(その2)を使用。

ア アンモク イ シヨウマツセツ

